

『美の力、芸術力によって、人を元気にする』実践と研究 —鑑賞における技能とは—

【代表者】

青木宏子 大阪教育大学 教育学部 特任准教授

【共同研究者】

渡邊美香 大阪教育大学 大学教員養成課程 准教授

高橋暁生 積水ハウス株式会社 CSR部 絹谷幸二天空美術館 研究員

【研究概要（申請書より抜粋）】

本研究は、美の力・芸術力を通して、人と作品、作品を前にした人と人とのコミュニケーションの方法について研究を行うものである。

美術教育における鑑賞は、豊かな感性を養う学習活動である。このような鑑賞活動において、美術作品がもつ力を感じるということは、一人ひとりが主体的に鑑賞する作品に関わる能力を発揮することである。しかし、作品を見慣れない人にとって作品を前にした時に何を見、何を感じるのかが分からない、作品を見ることの意味が分からないということも多くある。本研究では、作品から得られた情報を鑑賞者自身の記憶や思いと照合させながら味わい発見を楽しむために必要な、作品に対する問いかけ、語りかけ「鑑賞における技能」を習得、検証することを目的とする。本技能を浮かび上がらせることで鑑賞学習に対する分かりにくさの解消、一人ひとりの感性に応じた鑑賞指導のあり方を提案する。加えて、異文化交流の中で芸術作品を用いたコミュニケーションの方法を検討する。

積水ハウス株式会社が芸術文化発信の拠点として開設した「絹谷幸二天空美術館」の作品・文化資料と大阪教育大学美術教育講座で培ってきた教育研究方法をお互いに活用し、社会に開かれた教育における美術鑑賞活動の研究を進めるものである。